



2013年8月6日

各 位

会 社 名 株式会社高松コンストラクショングループ
代表者名 代表取締役社長 小川 完二
(コード番号 1762 東証第一部)
問合せ先 取締役専務執行役員 北村 明
(TEL 03-3455-8108)

特別利益の計上および業績予想の修正に関するお知らせ

当社は下記のとおり、特別利益を計上する見込みとなりましたため、2013年5月14日に公表した2014年3月期第2四半期（累計）および通期の連結業績予想を修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 特別利益の計上

(1) 持分変動利益の計上

当社の連結子会社である青木あすなる建設株式会社（以下、「青木あすなる建設」といいます。）と青木マリン株式会社（以下、「青木マリン」といいます。）は、2013年3月19日付「連結子会社における株式交換（青木あすなる建設株式会社による青木マリン株式会社の完全子会社化）に関するお知らせ」に記載のとおり、2013年8月1日を効力発生日とする株式交換により、青木あすなる建設が青木マリンの全株式を取得し、完全子会社といたしました。

この株式交換により、青木あすなる建設が保有する自己株式が青木マリンの株主の皆様へ割り当てられたことで、市場に流通する青木あすなる建設の議決権のある株式総数が増加し、当社の議決権比率は約3.2%減少することとなりました。

以上により、青木あすなる建設の連結株主資本の当社持分において、青木マリンが完全子会社となったことによる増加額と、青木あすなる建設に対する当社の議決権比率が減少したことによる減少額との差である約4億円を、持分変動利益に計上する見込みとなりました。

(2) 負ののれん発生益の計上

当社は、(1)の株式交換により減少した青木あすなる建設に対する当社の議決権比率を、6月末と同程度（74.1%）に維持するため、同社が発行し当社が保有する議決権のないA種株式14,864,500株のうち5,800,000株について、議決権のある普通株式へ転換請求することを本日開催の取締役会で決議いたしました。この転換は、青木あすなる建設の定款第7条にもとづき、同社の取締役会における決議により実施（転換予定日は9月下旬）されることとなります。

上記のとおり、青木あすなる建設に対する当社の議決権比率が増加することにより、負ののれん発生益を約18億円計上する見込みとなりました。

(1) および (2) により、第2四半期において、約22億円の特別利益を計上する見込みとなりました。

2. 業績予想の修正

(1) 2014年3月期第2四半期(累計)連結業績予想数値の修正(2013年4月1日～2013年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	70,000	1,000	1,000	500	13.88
今回発表予想 (B)	70,000	1,000	1,000	2,700	74.96
増減額 (B-A)	—	—	—	2,200	
増減率 (%)	—	—	—	440.0%	
(ご参考)前期第2四半期実績 (2013年3月期第2四半期)	64,655	865	911	422	11.62

(2) 2014年3月期通期連結業績予想数値の修正(2013年4月1日～2014年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	155,000	5,300	5,300	3,200	88.84
今回発表予想 (B)	155,000	5,300	5,300	5,400	149.92
増減額 (B-A)	—	—	—	2,200	
増減率 (%)	—	—	—	68.8%	
(ご参考)前期実績 (2013年3月期)	149,974	4,715	4,851	2,911	80.43

3. 修正の理由

1. に記載した特別利益の計上により、2014年3月期連結業績予想数値につきまして、第2四半期(累計)の四半期純利益および通期の当期純利益が、前回予想を22億円上回る見込みとなりました。

なお、売上高から経常利益につきましては、前回予想の通り順調に推移しております。

(注) 上記の予想数値は、本資料の発表日現在において入手可能な情報にもとづいて作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

以 上